

研究成果情報	園芸	32	果樹	病害虫
新技術・情報名	ブドウ枝膨病柄胞子の飛散範囲		分類	①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

これまで罹病枝直下にしか飛散しないとされていたブドウ枝膨病柄胞子の飛散範囲は約7mと比較的広い。

- (1) 病原性のある α 柄胞子は、潜伏病斑の発生状況からみて少なくとも罹病枝から7m程度は飛散し、そのうち罹病枝から3mの範囲では比較的高濃度で飛散する。
- (2) α 柄胞子、 β 柄胞子とも罹病枝直下への飛散量が最も多い。
- (3) 罹病樹から9m以上離れると、柄胞子飛散による感染は起こらない。

2) 技術・情報の適用効果

新植や改植の際に、罹病樹からの柄胞子飛散による苗の感染が防止できる。

3) 適用範囲

ブドウ（特に巨峰群品種）栽培地帯

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

罹病樹が近くにある場合は、新植や改植を行わない。

2. 具体的データ

表1 罹病枝からの距離と枝膨病柄胞子の採集量（平成元～2年）

採集年月日	柄胞子の種類	罹病枝からの距離 (m)							
		0	0.5	1.0	2.0	3.0	5.0	7.0	9.0
平成1年	α	71	19	18	33	53	-	-	-
6.30～7.10	β	194	43	0	7	0	-	-	-
平成2年	α	27	-	9	-	0	0	0	0
6.12～7.2	β	102	-	9	-	3	0	0	0

注) 数値は寒天濃縮法による濃縮雨水0.1m³中の累積柄胞子数
(4方位の合計値)

表2 罹病枝からの距離と発病枝率（平成2～3年）

病斑の種類	罹病枝からの距離 (m)					
	0	1.0	3.0	5.0	7.0	9.0
黒色病斑	100	23.7	5.6	0	0	0
潜伏病斑	-	78.3	39.1	31.8	16.7	0

注) 数値は発病枝率：%（4方位の平均値）

3. その他特記事項

担当部科室名：生産環境研究所 病害虫部 果樹病害虫研究室

研究担当者名：梶谷裕二・山田健一・山中正博

研究課題名：ブドウ枝膨病の総合的防除技術の開発

1) 発生生態の解明

期 間：平成元年～平成3年

予算区分：地域重要新技術

既発表論文・資料名等：平成元年～3年度福岡県農業総合試験場果樹病害虫関係試験成績書

取りまとめ責任者名：梶谷裕二